

中河内ブロック支援通信

猛暑を吹き飛ばす熱い思い「第1回中河内ブロック研修会」8月3日開催

今年度も「事例から学ぶ支援教育」をテーマに、中河内ブロック研修会が行われました。東大阪市・八尾市の幼、小、中の教員の方、支援学校の教員、計86名の参加者が日々の指導・支援に悩む事例を持ち寄り、異校種の6名グループに分かれ意見交換がなされました。

今の支援のしかたで良いのか悩んでおられるということは、子どもと真摯に向き合っているからこそ。報告をする教員からも、深く頷く教員からも、猛暑を吹き飛ばす熱い思いが伝わってきました。

参加者アンケートでは「様々な発達段階における悩みを聞き、それについて話し合うことで自分の視野が広がった」「報告することで自分自身の中で課題整理ができた」「他校の事例に自分の経験でアドバイスすることができ嬉しかった」といった感想を頂きました。

今後も、より実りのある研修会となるよう運営方法を見直しながら続けて参ります。2019年は8月2日八尾支援学校で開催します。ご参加をお願いします。

4年生頃から怒りっぽくなり、友だちとのトラブルが増えて…

本人は失敗が怖くて「困っている」のかも…



私の学校にも同じような言動をとる子がいます…



「カッとなりやすい」「トラブルが絶えない」「教室を飛び出す」など、**『反抗的、挑戦的な行動』**をおこす子どもの事例が15件ありました。ここで、ちょっとしたことばがけのヒントを紹介したいと思います。



①「わたしメッセージ」心のドアをノックする！

授業中にトイレにこもっている子どもに対して…

「また約束破ってる！」「**なんで教室に行かないの？!**」などと子どもの状態をそのまま伝えると、子どもは追い詰められ、感情的になります。これらを**あなたメッセージ**と言います。

一方、「心配だから見に来たよ」「時間だからトイレから出て来てほしいな」「一緒に教室へ行きたいな」…私はあなたにこうあってほしい、という思いで声をかけると、提案されていることになるので反発心が起きにくいです。これらを**わたしメッセージ**と言います。

②「共感」で心のドアを開ける！

「みんなと一緒にすることがやりたくない」という子どもに対して…

「他の子はみんなやってるよ！」「**授業中はみんなと同じことをやらないとダメだよ!**」などと**正論のみ**の声かけをすると、子どもは自分を「全否定された」と受け止めかねません。

一方、「やらないとダメってわかってるんだよね」「でも今はやりたくないんだね」「今日はどれかひとつだけやってみる？明日からする？自分で選んでごらん」…このように**共感と選択肢**を示された子どもは、話を聞く姿勢になりやすいです。

③「でもね、〇〇をがんばっていたじゃない！」で心の中に入る！

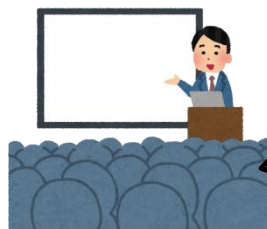
正直、ほめるところを探すのに一苦労する状況もあります。

「前に〇〇したことがあったね。あれはえらかったねえ。ずっと前のことでもいいですね。」
「〇〇してたの、ちゃんと見ていたよ」そんな言葉に、子どもは伏せていた顔を上げます。
『ほめるところは探すのではなく、作る』…と言いますね。



第2回ブロック研修会のお知らせ

日時 2019年1月7日(月) 14:00~17:00 (予定)
 場所 東大阪市立男女共同参画センター・イコラーム
 講師 梅花女子大学 教授 伊丹 昌一 先生



どんなこともわかりやすく。伊丹先生のお話、必聴です。